

第65回企画展

# むかしの稲作（田植）

～ 写真でみる昭和 30 年代の田植 ～



平成27年7月5日～平成27年9月27日

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

日本農業の根幹である稲作は、国民生活とは切り離すことができないものでした。戦後、開田が進み稲の作付面積が増えたことや、品種改良、病虫害防除など農業技術が進歩し、収量が高まり1950（昭和25）年には、岩手県の米の生産量は33万tに達しました。そして県内で生産された米が、はじめて東京や大阪など県外に出荷されるようになりました。

岩手県では昭和30～31年に、農林省の委託を受けて県下10ヶ所の稲作作業方法を写真で記録しており、当農業科学博物館でその調査記録簿を収蔵しています。その写真から、前回の企画展では「育苗」をテーマに紹介しましたので、今回は続いて「田植の準備と田植」について取り上げます。

田植は農家にとって最大の「晴れ」の行事でもありましたが、単に主食の生産作業にとどまらず、その習俗には古くからの儀礼や技術を伝えているものがあります。

作業は、鎌立ちから始まり耕起（田打ち）作業、かま た 既肥・肥料散布・た う 灌水・代掻・きゅうひ 土ならし・かんすい 型付け・しろかき 田植と地域や土地条件などによって様々で人力や畜力を使った作業でした。その作業一つひとつを礎として、技術革新され現在の作業体系があります。

作業風景や習俗をまじえて、先人の<sup>て か す</sup>手数をかけた米づくりへの思いを学ぶ機会とします。



岩手県立農業ふれあい公園

## 農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直近の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台